



公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京
NPO法人ダンスアーカイヴ構想

Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13

「**TOKYO REAL UNDERGROUND**」
プレスリリース第3弾
鷹野隆大による新作を含む
展示プログラムを8月3日より実施決定
舞踏のレガシーを次世代に伝える

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が主催する Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13のひとつ、TOKYO REAL UNDERGROUND は、コロナ時代の新たなオンラインダンスフェスティバルに取り組み、様々な創意工夫を重ねながら展開しています。TOKYO REAL UNDERGROUND のオンラインプログラムで



は、「舞踏」をテーマにしたパフォーマンス映像作品やアーティストトークを20以上配信、また、舞踏の歴史をわかりやすく見渡せる年表「舞踏出来事ロジ」も公開しています。参加登録をすれば、視聴はすべて無料です。6月25日現在参加登録は2533名、オンライン映像総視聴者数は9584名です。オンラインコンテンツは8月15日までオンデマンドで配信しています。またこの終幕を飾るプログラムとして「舞踏ニューアーカイヴ展」を8月3日より開催します。

「舞踏ニューアーカイヴ展」は、徹底した感染症対策を施しながら予約者限定の入れ替え制で開催するリアルな展覧会です。写真家・鷹野隆大が舞踏家とのコラボレーションにより制作した映像作品「RED & GREEN」や、土方巽、大野一雄、大野慶人といった舞踏界のレジェンドたちの代表作を現代のダンサーが厳密に再現する疑似ホログラムなどを展示。舞踏という身体表現を実験的な手法でアーカイヴし、次世代へのレガシーとして伝える作品を発表します。10数名の当代を代表する舞踏家、コンテンポラリーダンサー、写真家、映像作家、画家といった多彩なジャンルの表現者がそれぞれの視点から舞踏にアプローチする展覧会です。

本展の見所

- 写真家・鷹野隆大が、影をテーマに、10人の舞踏家とのコラボレーションで制作した映像作品『RED & GREEN』を発表
- 舞踏の誕生に深く関わった3人の舞踏家——土方巽、大野一雄、大野慶人の代表作を現代のダンサーが完全コピーした立体映像を疑似ホログラムで公開
- 好評のオンラインコンテンツ「舞踏出来事ロジ」掲載のイラスト原画49点を、インスタレーション作品として展示

TRUエキシビジョン「舞踏ニューアーカイヴ展」

会期：2021年8月3日（火）～15日（日）

時間：月～金|14:00-20:00、土|13:00-21:00、日|11:00-18:00

会場：BUoY 地下スペース（〒120-0036 東京都足立区千住仲町49-11 北千住駅より徒歩10分）

料金：無料

参加方法：日時指定事前予約制（1時間毎に入替 / 各回定員20名）

予約受付開始：2021年7月1日（木）詳細は後日公式WEBサイトにて発表

展示内容：

- ・鷹野隆大『RED & GREEN』 新作映像インスタレーション
- ・飯名尚人『三』 疑似ホログラムと映像展示
- ・石原葉『舞踏出来事ロジータ井画』 イラスト原画49点

鷹野隆大『RED & GREEN』

“消えゆく身体をアーカイヴする”

現代日本を代表する写真家、鷹野隆大による新作映像作品です。

写真家としての視点から映像をどう使うか、そして、身体をどのように映像の中で扱うか、ということに興味を持ち、映像作品企画『RED & GREEN』をスタートしました。今回は、石井則仁、石本華江、岩淵貞太、上杉満代、小林嵯峨、鈴木ユキオ、蟬丸、武内靖彦、向雲太郎、吉本大輔、当代を代表する舞踏家たちとのコラボレーションです。この作品では、壁一面に蓄光塗料が塗られた空間に、真紅の照明が焚かれ、その中で舞踏家は佇んだり、踊ったりという静かな、しかし個性的な動きを繰り返します。そこで強いストロボが発光すると、舞踏家の影が蓄光の壁に定着され、影だけが残されます。舞踏家が立ち去った後、蓄光の緑と舞踏家の黒い影だけが残り、その影もやがて数分ほどで静かに消滅します。赤と緑の光の時間軸の中で肉体の幻影が明滅する、静かな映像作品です。写真が生まれる瞬間に立ち会うかのような体験を作り出し、「消えゆく身体のアークイヴ」というダンスアークイヴの根本的な問いを投げかけます。

コンセプト・撮影・ディレクション：鷹野隆大

キュレーション：飯名尚人

出演：石井則仁、石本華江、岩淵貞太、上杉満代、小林嵯峨、鈴木ユキオ、蟬丸、武内靖彦、向雲太郎、吉本大輔（50音順）

機材提供：ソニーマーケティング株式会社

鷹野隆大 | Ryudai TAKANO

写真家。1963年生まれ。女か男か、ホモかヘテロかといった二項対立の狭間にある曖昧なものの可視化を試みた作品集『IN MY ROOM』で、2006年に木村伊兵衛写真賞を受賞。他に同テーマをポルノグラフィカルな形式で探求した『男の乗り方』、日本特有の都市空間を集めた『カスババ』など、写真作品を通して制度化された視覚の外側を模索し続けている。今年6月29日から9月23日まで、大阪の国立国際美術館で『毎日写真／1999-2021』と題し、本格的な個展を開催する。



飯名尚人『三』

“三面疑似ホログラムでアーカイブする”

舞踏の誕生に深く関わった3人の舞踏家——土方巽、大野一雄、大野慶人の代表作を現代のダンサーが完全コピーします。踊り手は川村美紀子、川口隆夫、松岡大。舞踏の精神に現代の手法で鋭く反応する、当代きっての3人です。川村が土方巽の『抱瘡譚』(1972)、川口が大野一雄の『ラ・アルヘンチーナ頌』(1977)、松岡が大野慶人の『土方三章』(1985)を厳密に再現します。3人のパフォーマンスを三方向から同時に記録した映像を使い、三面疑似ホログラムの映像インスタレーションを制作しました。このパフォーマンスを旧博物館動物園駅で行った模様はTRUオンライン内で同名のタイトルで配信中です。

疑似ホログラムの元になる映像は、正面、右、左の3方向からダンサーの踊りを撮影した映像を合成したものです。ダンサーの踊りの重心や足の位置を3方向から記録する映像とその合成映像を再生する疑似ホログラムは、立体的に踊りを記録し、再生することができ、より精細な動きのアーカイブを可能にしています。



撮影：飯名尚人、吉田尚弘、河村衣里

ディレクション：飯名尚人

出演：川口隆夫、川村美紀子、松岡大

撮影編集：吉田尚弘、河村衣里、飯名尚人

飯名尚人 | Naoto IINA

映像作家・演出家・ドラマトウルク・映像セノグラファー・プロデューサー。Dance and Media Japan 主宰、国際ダンス映画祭主宰。東京造形大学准教授、座・高円寺劇場創造アカデミー講師。映像・身体・言葉を用いてジャンル横断的作品を手掛ける。オンライン舞踏番組「Re-Butoooh (リ・ブトー)」(NPO 法人ダンスアーカイブ構想)では、演出・構成・撮影・編集を担当している。

石原葉『舞踏出来事ロジー・天井画』

“舞踏を出来事としてアーカイブする”

TRU エキシビジョンとしてオンラインで展示中の作品「舞踏出来事ロジー」は、舞踏が様々な領域で活躍してきたことを「出来事」として年表にしています。この「舞踏出来事ロジー」に挿入された石原のイラストは写真や映像資料から得た「印象」を核にして描かれています。本展では、この年表に使われた人の心に残る「記憶」や「印象」を伝えるイラスト49点を一堂に集めて、天井画として展示します。

イラスト：石原葉

キュレーション：飯名尚人

石原葉 | Yo ISHIHARA

美術家。1988年生まれ。2020年東北芸術工科大学大学院芸術工学専攻博士課程修了。「あなたたち」と「わたしたち」「あなた」と「わたし」の間に引かれる目に見えない境界、無自覚なフィルターをテーマとして絵画制作を行っている。直近の活動として、2020年靖山画廊にて5月にオンライン、8月に同画廊にて個展「Who」を開催。ほか展覧会多数。また一方で集団による制作、活動も継続的に行っている。

※本展覧会は新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底して実施します。ご来場のお客様におかれましても感染症対策へのご理解・ご協力を賜りたく、公式WEBサイトに記載の内容をご一読のうえ、遵守くださいますよう、お願い申し上げます。 <http://www.tokyorealunderground.net/news/0006.html>



【関連イベント】「舞踏ニューアーカイブ展」関連トークと舞踏家展示を TRU オンラインで配信

日時：2021年7月3日(土) 19:30配信開始(約60分)～8月15日まで視聴可能 会場：オンライン 参加方法：視聴無料・TRU オンラインに要登録
トーク出演：鷹野隆大、飯名尚人、溝端俊夫 舞踏家展示：小林嵯峨 ディレクション：飯名尚人

配信：NPO 法人 LAND FES 参加登録リンク：<http://www.tokyorealunderground.net/ticket.html>

舞踏家展示とは、トークが進行する同じ空間で、舞踏家が集まる彫刻のように佇み、美術作品のように見られる存在として展示され、舞踏が作り出す空気感の中でトークが進行する、新しいタイプのイベントです。

開催概要

Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13 「TOKYO REAL UNDERGROUND」

会期： 2021（令和3）年4月1日（木）～8月15日（日）
会場： オンラインおよび都内複数カ所
料金： 無料（オンラインプログラムは登録制）
参加登録： <http://www.tokyorealunderground.net/ticket.html>

参加アーティスト： 飯名尚人、生西康典、石井則仁、石本華江、伊藤キム、今貂子、岩淵貞太、上杉満代、遠藤公義、Oguri、尾竹永子、カセキユウコ、川口隆夫、川村美紀子、ウィリアム・クライン、小林嵯峨、小林勇輝、酒井直之、佐藤ベチカ、鈴木ユキオ、蟬丸、鷹野隆大、武内靖彦、竹之内淳志、田中トシ、田辺知美、HAUS、ビショップ山田、松岡大、向雲太郎、ゆみうみうまれ、吉本大輔、リヴァー・リン、他（50音順）

キュレトリアル・チーム
アーティストック・ディレクター： 川口隆夫（パフォーマー）
キュレーター： 飯名尚人（映像作家・演出家・Dance and Media Japan代表）
松岡大（舞踏家・LAND FES代表）
プロデューサー： 溝端俊夫（NPO法人ダンスアーカイヴ構想 理事長）

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
企画運営：NPO法人ダンスアーカイヴ構想



協賛：BNPパリバ・グループ

協力：大野一雄舞踏研究所、NPO法人舞踏創造資源、慶應義塾大学アート・センター、FILMS PARIS NEW YORK、Dance and Media Japan、NPO法人LAND FES、株式会社鈴木事務所、株式会社HAUS、株式会社佐々木設計事務所、有限会社かんだ、京成電鉄株式会社、首都高速道路株式会社、アーツアンドスナック運動 実行委員会、きもの池之端藤井、東京文化資源会議、公益財団法人セゾン文化財団、Taiwan Contemporary Culture Lab、ソニーマーケティング株式会社、一般財団法人セガサミー文化芸術財団
広報協力：ダンス プレストウキョウ

公式WEBサイト：<http://www.tokyorealunderground.net/>

Facebook：@DanceArchiveNetwork / Twitter：@dance_archive / Instagram：@dancearchivenetwork

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により、プログラム内容に変更が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。

舞踏／BUTOHとは

戦後日本で生まれた前衛的的身体表現。1920年代のドイツ・モダンダンスにその源流を持ちながら、西洋の舞踊概念を打ち破る独自の境地を切り開きました。土方巽『禁色』（1959）が最初の作品とされます。70年代後半より「BUTOH」の名で世界中に広まり、現在では世界各地で舞踏フェスティバルが開催されているほか、学校教育の授業や教科書でも取り上げられています。

NPO法人ダンスアーカイヴ構想とは

NPO法人ダンスアーカイヴ構想は、大野一雄・大野慶人アーカイヴの芸術資産とノウハウを核に、横断的なダンスアーカイヴの意義の周知と国際ネットワークの構築を推進する団体です。舞踊文化の継承と振興に寄与することを目指し、資料の収集保存に加え、それらを活用した作品制作も企画します。また3D技術による新たなアーカイヴ手法の開発に取り組んでいます。

公式WEBサイト：<http://www.dance-archive.net/>

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」とは

オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組です。

「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」とは

斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募り、Tokyo Tokyo FESTIVALの中核を彩る事業として、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施するものです。国内外から応募のあった2,436件から選定した13の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」と総称し、展開しています。

公式WEBサイト：<https://ttf-koubo.jp/>

お問い合わせ先 | NPO法人ダンスアーカイヴ構想（担当：西山・溝端）

メール：press@tokyorealunderground.net

TEL：03-3582-9273 / FAX：03-3582-9275

